

マハティール前首相、UMNOを離党 (2008.5.19)

マハティール前首相 UMNO 離党の経緯

塩崎悠輝

(同志社大学大学院博士課程)

5月19日、マハティール前首相は、地元クダ州にて千数百名が集まった集会において、UMNO から離党することを表明した。離党はアブドゥッラー首相に辞任を求めためであり、アブドゥッラー首相の離党後に復党するともマハティール前首相は述べた。

マハティール前首相のアブドゥッラー首相に対する批判・辞任要求は、2006年から続いているが、3月8日の総選挙「大敗」という結果を受けて、マハティール前首相は改めてアブドゥッラー首相の即時辞任を求めた。マハティール前首相の長男であるムクリズ・マハティール下院議員やトゥンク・ラザレイ元財務相も首相交代を要求し続けているが、現職の首相兼UMNO 総裁の権限は強大であり、12月のUMNO 年次党大会での人事改選に向けて、総裁交替を実現する方途は、アブドゥッラー首相の辞任くらいしか考えられなくなりつつある。さらなる圧力をかけようとしたマハティール前首相が、自らUMNOを離党し、UMNO 所属の閣僚、議員、一般党員に離党を呼びかけた。この呼びかけに答えた閣僚、議員は、23日時点で1人もいない。

マハティール前首相の離党表明に先立つ5月16日、リンガム・テープ問題に関する王立調査委員会の報告書が公表された。リンガム・テープ問題とは、著名弁護士リンガムが、当時首相府副大臣であったトゥンク・アドナンらと協議して連邦裁判所長官人事等の決定に参加したとされる問題で、マハティール前首相らが司法の独立に介入していたのではないかということが問題とされている。報告書は、マハティール前首相、トゥンク・アドナンらを煽動罪、公共機密法等に違反した容疑で捜査することを勧告している。アブドゥッラー首相も報告書を受けてマハティール前首相以下6名を捜査するべきであると述べており、これによってマハティール前首相とアブドゥッラー首相の対立はより尖鋭化したと見られる。

マハティール前首相のUMNO 離党は、少なくともUMNO が内紛に終始し、アブドゥッラー首相には指導力が欠如しているという印象を有権者の間で広める効果はある。野党は、マハ

ティール前首相の UMNO 離党を好材料と見ており、アンワル元副首相は、9 月までにアブドゥッラー首相に対する不信任案を可決させ、解散総選挙に持ち込みうると述べている。■